

このだいらいせき 21. 小野平等遺跡

所在地：越前市小野町

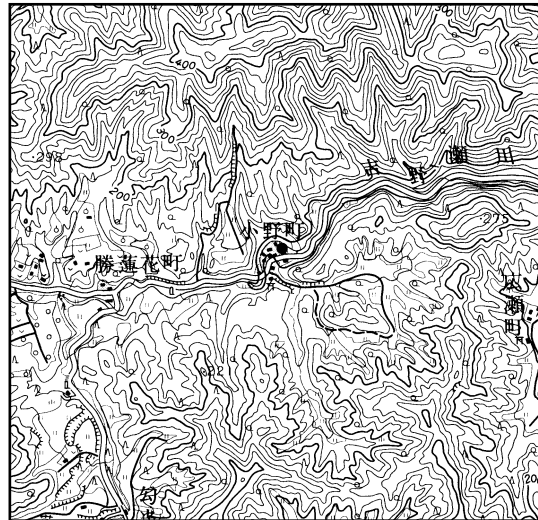
調査原因：日野川総合開発事業吉野瀬川ダム建設

調査期間：平成23年10月3日～11月30日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：750㎡

時代：中世・近世



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 小野平等遺跡は、小野遺跡の東方約200mの吉野瀬川左岸に位置します。吉野瀬川が北に屈曲し、舌状となった小規模な河岸段丘上の東側にあたり、地元で「大竹藪」と呼ぶ竹林が広がっていました。小野町には、地名の由来となった小野妹子の一族の小野姫がこの地に移り住み、埋葬された場所が大竹藪であるという伝承があります。そして川に近い所には拳大～人頭大の石を積み上げた2つの塚(SX-01・02)があり、少し離れた山際には五輪塔の一部が露出している場所がありました。調査では塚と山際を少しずつ掘っていきました。

遺構 石積み遺構の規模は、SX-01は長径約5m、短径約4.5m、高さ約1mを測り、平面形は不整形三角形です。SX-02は長径約7.5m、短径約6.5m、高さ約1.4mを測り、平面形は円形です。どちらも緩やかな段丘の縁に位置し、近辺で産出する角張った石を主体とします。SX-01・02ともに周囲の礫・黒色土を除去していったところ、自然の巨岩が現れました。本来、露出していたものが、やがて周囲を石で覆われる過程で、石塔の破片が混じったようです。石および黒色土の中からは近世の磁器片や寛永通宝が出土しており、近世以降に形成されたと考えられます。また、山際の平坦面の調査では、大小多数の石が集中した箇所があり、その石に混じって、中世と考えられる越前焼の甕の破片と2点の石塔片が出土しました。しかし、この石の集中には人為的なものは認められず、その後の掘削でも遺構・遺物は確認出来ませんでした。これら礫・石塔・甕の破片は本来の位置を保っていないことが判明しました。

遺物 出土遺物には、今回の調査と過去の試掘調査において、五輪塔は空風輪3点、火輪3点、水輪5点が、宝篋印塔は小破片2点が出土しました。その他、近世の陶磁器、土師質皿、銭貨があり、中世の陶磁器および古代の須恵器が少量出土しました。

まとめ 出土した石塔の数から、少なくとも6基の石塔が存在していたことが窺える墓域が想定されますが、調査ではその位置を明確にすることはできませんでした。

(野路 昌嗣)



小野遺跡と小野平等遺跡（南東上空から）



小野平等遺跡調査前近景（南東から）



SX-02 掘削風景（北から）



調査前の SX-01 (右) と 02 (左) (南から)



SX-02 解体後 (北東から)